

## 1. 4年産最終集荷見込（5月末）

(1) 4年産主食用米の集荷数量は、JA段階で291万ト（前年比95%）、連合会段階で212万ト（前年比91%）と前年を下回っています。

## 2. 4年産契約・販売状況

### (1) 事前契約

4年産の事前契約数量は137万トと、前年から+9万ト（107%）の積上げとなりました。需給改善を受け、多くの販売先が事前契約によって早期に契約を積み上げる動きが見られました。

なお、5年産は、販売計画の70%（147万ト）を成約目標として掲げ、2月～3月にかけて播種前・複数年契約を推進した結果、93万トンまで積み上がっています。

### (2) 契約・販売状況（6月末）

ア. 4年産主食用米の契約数量は184万ト（前年比94%）となっています。また、販売数量は111万ト（前年比97%）と前年を下回っています。

イ. 7月以降要販売数量は81万トと、前年を14万ト下回る見込みです。

## 3. 4年産米価格の動向

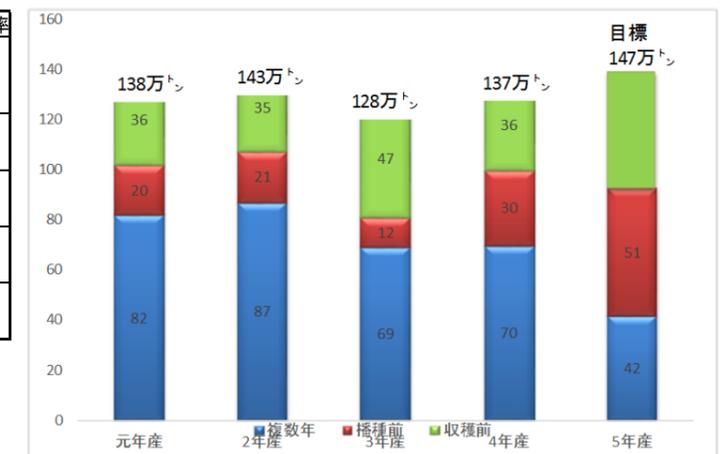
(1) 農林水産省が公表した4年産5月相対販売価格（税別・包装抜換算）は、12,723円/60kgと、前年同月差+1,116円となっています。

(2) また、6月上旬における4年産市中価格（業者間のスポット取引価格）は、前年同月から+1,900円～2,400円/60kgとなっています。

【図表1】4年産最終集荷見込み（5月末）

年産	生産量 主食用米 ①	集荷見込み				連合会集荷率 ⑥=③/①
		主食用米		水田活用米数 連合会 ④	連合会計 ⑤=③+④	
		JA ②	連合会 ③			
4年産 (作況100)	670	291	212	71	283	32%
3年産 (作況101)	701	305	234	63	297	33%
前年差 (4-3)	▲31	▲14	▲22	8	▲14	
前年比 (4/3)	96%	95%	91%	112%	95%	

【図表2】事前契約の成約状況等



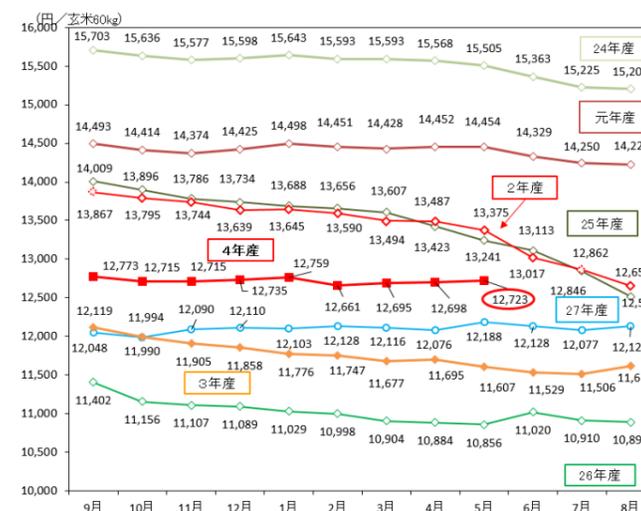
【図表3】4年産主食用米の販売状況（6月末速報値）

年産	販売計画 ①	契約 ②	未契約 数量 ③=①-②	販売実績					5年7月以降 要販売 数量 ⑤=①-④
				出回り～3月	4月	5月	6月	合計④	
4年	1,918	1,839	79	689	146	141	133	1,108	809
3年	2,127	1,951	175	696	163	145	176	1,180	947
2年	2,155	1,638	518	719	165	143	179	1,206	949
4/3	90%	94%	45%	99%	90%	97%	75%	94%	86%
4-3	▲209	▲113	▲96	▲8	▲17	▲4	▲43	▲72	▲137
4/2	89%	112%	15%	96%	88%	99%	74%	92%	85%
4-2	▲238	201	▲439	▲31	▲19	▲2	▲46	▲98	▲140

注1) ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。

注2) 販売数量は、実出荷ベース。

【図表4】相対取引価格の推移（5月末）



(備考) 農林水産省公表相対価格にもとづき作成。包装代・消費税相当額を控除した価格。

【図表5】4年産市中価格（6月上旬）

産地	岩手	宮城	茨城	栃木	千葉
銘柄	ひとめぼれ	ひとめぼれ	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ
5年7月上旬(4年産)①	13,800	13,800	13,400	13,400	13,400
4年7月上旬(3年産)②	11,700	12,400	11,100	11,000	11,000
①-②	1,900	1,400	2,300	2,400	2,400

※市中価格は、関東着・大阪着・在姿、包装込。

※米穀市況速報A版から抜粋。

#### 4. 今後の需給見通し

- (1) 農林水産省が公表した需給見通しによると、4年産米の作付転換が大きくすすんだ結果、5年6月末民間在庫量は191～197万トンを大きく下回ることが見込まれます。
- (2) また、5年産米も4年産米と同程度の作付けとすることにより、6年6月末民間在庫量は180～186万トンとさらに在庫が減少し、一層の需給改善がすすむことが見込まれます。

#### 5. 今後の取組み

- (1) 2・3年産持越古米は、国の周年事業を活用しながら、計画的な販売をすすめます。
- (2) 4年産米については、全ての産地において契約の目途が立っております。今後は、周年事業を活用した長期計画的販売に取り組めます。
- (3) 5年産においても、確実な需給改善をはかるため、需要に応じた適正生産の取組みを継続してすすめていきます。
- (4) また、需要を早期かつ安定的に確保する観点から、6月を目途に収穫前契約を実施し、事前契約成約目標147万トンの達成に向け、契約数量の積上げを図ります。

#### 6. 消費拡大・理解醸成の取組み

##### (1) 消費拡大の取組み

米の消費拡大に向けて、消費促進（お米を食べたくなる動機付け）、お米の魅力発信（お米は太るという誤解の払拭など）を軸に、多種多様な企業・行政・団体・大学などとも連携し、より直接的にお米の購買行動につながる取組みを強化します。

##### (2) 生産コスト高騰にかかる理解醸成の取組み

肥料・燃料など生産コストが高騰しており、米づくりの継続が危ぶまれている現状にあることから、本会は、消費者に対し、再生産可能な価格水準設定への理解を求めため、3月下旬に新聞広告やWEBサイトでの動画配信を実施しました。今後もこれらを活用しながら理解醸成に努めます。

【図表6】今後の需給見通し（3月1日 食糧部会）

(単位：万トン)

令和4/5年	令和4年6月末民間在庫量	A	218
	令和4年産主食用米等生産量	B	670
	令和4/5年主食用米等供給量計	C = A + B	888
	令和4/5年主食用米等需要量	D	691 ~ 697
	令和5年6月末民間在庫量	E = C - D	191 ~ 197
令和5/6年	令和5年6月末民間在庫量	E	191 ~ 197
	令和5年産主食用米等生産量	F	669
	令和5/6年主食用米等供給量計	G = E + F	860 ~ 866
	令和5/6年主食用米等需要量	H	680
	令和6年6月末民間在庫量	I = G - H	180 ~ 186

【図表7】当面の取組み

2・3年産持越古米	国の周年事業を活用した計画的販売
4年産米	適正水準での価格設定
	周年事業を活用した長期計画的販売
5年産米	需要に応じた適正生産の継続
	事前契約147万トンに向けた収穫前契約の実施
	適正な米価格形成と米の消費拡大に対する実需者・消費者への理解情勢

【図表8】消費拡大に係る取組み

##### ○食べて笑おう丼キャンペーン



##### ○新聞広告（3月27日掲載）



<https://donburi.ricesmile.jp/>